

要事前申込・入場無料

申し込み方法については裏面参照

第24回  
丸山眞男文庫  
記念講演会

〈劇〉としての  
「東大紛争：1968-69」

〈闘争劇〉〈祝祭劇〉〈悲劇〉から  
〈メディア・イベント〉へ

吉見俊哉氏

(國學院大学教授)

2024年

12月14日(土)14:00～15:30頃

東京女子大学23号館1階

23101教室

対面・配信同時開催(要事前申込)

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 ☎ 03-5382-6817

✉ maruyamabunko@gr.twcu.ac.jp ✕ <https://x.com/maruyamabunko>

🌐 <https://www.twcu.ac.jp/main/research/maruyama-center/index.html> \*事務取扱時間：水・木・金曜日(10:30～16:30)

## 講師より

本報告は、私が2023年3月19日、東京大学安田講堂から無観客・完全オンラインで配信した最終講義「東大紛争1968-69」についての解題です。この最終講義は、リアルタイムの視聴者が約1200人、同年4月末までの約1ヵ月のアーカイブ視聴が約15万人に達しました。私は、「東大紛争：1968 - 69」が、三重の意味で〈劇〉であったと考えます。第1に、1968～69年に起きた実際の東大紛争が演劇的な構造を内包していたこと。第2に、その「東大紛争：1968 - 69」をテーマにした私の最終講義が、「講義」ではなく「劇」として演じられたこと。最後に、この〈劇〉というタイトルには上演論的社会学の構想が含まれており、そこからすれば、紛争終結から約7年後の1976年に東京大学に入学した私自身が、実は東大紛争という〈劇〉の広がりの中かで生じていた一場面の登場人物であったことが明らかになることです。

この概要では、実際の東大紛争がいかなる意味で〈劇〉であったのかだけを概説しておきます。諸々の資料を読み直せば明らかですが、東大紛争には大きな場面転換の契機となった4つの日付がありました。最初は、1968年2月19日に起きた春見医局長事件という教員と学生の衝突。それ以前から紛争の火種はありましたが、この事件に過剰反応した強硬派の豊川医学部長が、証拠をろくに調べずに学生の大量処分を教授会決定し、しばらくして処分された1人が事件に関与していない明白なアリバイが証明されたことで、この医学部紛争は収拾のつかないものとなります。この頃から〈闘争劇〉としての東大紛争が始まったわけです。

第2の日付は、同じ68年の6月17日、こじれにこじれた医学部紛争のなかで、医学部活動家の一部が安田講堂を占拠したことに対し、大河内一男総長は、学生との対話も教員間での議論も何も経ずに独断で機動隊導入による学生排除を決定してしまいました。そしてこの機動隊導入が、それまでの「医学部紛争」を、「東大紛争」に転換させます。つまり、それまでは混迷する医学部の紛争を遠目で眺めていた他学部一般学生が、この総長の「暴挙」に怒りを爆発させ、次々に集会を開き、安田講堂という舞台に上るようになっていったのです。このことにより、舞台と客席を隔てていた境目が消えて、一般学生を含む多くの東大生が総演者化する〈祝祭劇〉の時期が到来します。

東大紛争が〈祝祭劇〉として演じられたのは同年7月から10月初めまでで、10月下旬以降、東大紛争は〈悲劇〉へと暗転していきます。一方では、10月頃から学生党派間の暴力抗争、つまり「内ゲバ」が激しくなり、そうした暴力的な衝突からは身を引こうとする一般学生が増えてきます。他方、大学中枢では、混乱する学内に何も有効な手を打てなかった大河内執行部が総退陣し、加藤一郎をはじめとする一世代若い教授たちが新執行部に就任、一気果敢に学生との対話を試み始めます。この対話を、全共闘側が拒否したことで、ドラマは暗転するのです。

最後に、一般的には1969年1月19日、東大紛争は機動隊導入で安田講堂に立て籠っていた全共闘の学生たちが制圧され、東大キャンパスに再び平穏が戻ることにより終息したと思われています。しかし、私は〈劇〉としての「東大紛争」は、その後も長く〈メディア・イベント〉として演じられ続けたと考えています。すなわち、機動隊の導入と放水車や催涙弾、火炎瓶が飛び交った「攻防戦」は、1960年の学生叛乱の結末を象徴するスペクタクルとしてテレビを始めとするメディアで再演され続けました。そしてそのような「再演」が、過去の集合的記憶を変形する、つまり「東大紛争」で何が問われたのかについての問い直しを逆に困難にしてきたと私は考えています。

## 講師プロフィール

吉見俊哉(よしみ しゅんや)

1957年生まれ。社会学、都市論・メディア論。東京大学大学院情報学環教授を経て、現在、國學院大學観光まちづくり学部教授。著書に、『都市のドラマトルギー』(弘文堂、1987)、『博覧会の政治学』(中公新書、1992)、『親米と反米』(岩波新書、2007)、『大学とは何か』(岩波新書、2011)、『夢の原子力』(ちくま新書、2012)、『空爆論』(岩波書店、2022)、『さらば東大』(集英社新書、2023)など。

## 参加方法

参加をご希望の方は対面・遠隔いずれも郵送もしくはGoogleフォーム(右のQRコードあるいは下のURL)よりお申込み下さい。

<https://forms.gle/FNWkMaw4Xy76bYjs5>

